

# 大さん橋新聞

横浜港で最も歴史のある埠頭の実態



上:一九五三年の大さん橋



下:現在の大さん橋

大さん橋が日本の海運業界の最前線で見てきた景色とは

## 大さん橋を通して知る歴史

ペリーの黒船来航によって、一八五九年に開港した横浜港。その後増加し続ける貨物量に小さな船着場だけでは対応しきれなくなり、接岸荷役を可能にする近代埠頭の必要性が高まつた。こうして一八八九年、接岸荷役が可能な埠頭の建設が始まつた。そして、一八九四年に現在の大さん橋の前身となる鉄桟橋が完成した。鉄桟橋は外国海運業界の拠点となり、当時の日本郵船などの日本海運業界の表玄関の一つとしても利用された。欧洲航路や北米航路のおおくの会社が定期航路を敷くようになつた。

一九二三年九月一日の関東大震災により大桟橋は崩壊したが復興が素早く行われたため、一九二五年が定期航路を敷くようになつた。

年九月には新しい大桟橋が完成した。戦後、大桟橋は連合国に接收され「サウスピア」と改称された。その後一九五二年二月十五日に接収解除となり北米定期航路、歐州航路が次々と初航路に着き、日本郵船の氷川丸がシアトル航路に復活するなど、さらには大桟橋は活躍を見せていつた。また、一九六四年に開催された東京オリンピックに合わせて三度目の大改修が行われた。

一九八〇年代から、海運旅客事業の今後を心配する声がある一方、クルーズ産業の興隆という新しいクルーズ客船の在り方が脚光を浴び始め日本の経済成長に伴い、日本のクルーズ人口も拡大した。

そして一九九〇年代の始め大桟橋そのものが設備更新時期を迎えたことに加え、船舶の巨大化が進んだため、一九八九年から大桟橋改修事業が着手され二〇〇二年に新たな大さん橋国際客船ターミナルが完成した。これが現在の大さん橋の姿となつてている。

横浜赤レンガ倉庫、山下公園などの歴史ある建築物が数多く残つてゐるみなとみらいの街で一際存在感を放つてゐる桟橋？いや一見すると公園にも見える場所。それが新しい横浜の玄関だ。

## 客船ターミナル

## 横浜港の新しい玄関！

大さん橋国際客船ターミナル(Osanbashi International Passenger Terminal)は横浜港で大型客船が複数同時着岸できる主要旅客ターミナルとして二〇〇二年に完成了。「クイーンエリザベス」「サファイア・プリンセス」などの大型客船である場合は二隻、「にっぽん丸」「パシフィックビーナス」など三万トン以下クラスの客船であれば四隻同時着岸が可能となつております。規模は神戸港の新港第四突堤に次ぐ。大さん橋は海路からの出入国の場であり、横花税関や横浜港を経由する旅客の出入国の中である。現在でも外国航路にでるクルーズ客船に乗下船する際は、ここで通関や出入国手続きや手荷物検査を行う。乗下船は基本的にボーディング・ブリッジを使用してターミナルを経由し行う。また現在は客船のみ大さん橋を利用していて、貨物船は着岸していない。

一九九四年、大さん橋の大規模改修にあたり、世界四十一カ国から六六〇作品が応募されるという、当時日本では最大規模の国際コンペが行われた。

そこで選ばれたのが「アレハンドロ・ザエラ・ポロとファッシード・ムサヴィによるfoa案」だった。そのデザイン案自体はもちろん、できる限りコンピュータで設計を行う当時は珍しい設計手法で世界中から注目を集めた。

大さん橋の最も特徴的な点は、客船ターミナルでありながら屋上がウッドデッキ及び芝生広場となつてお、二十四時間自由に出入りできる公園として市民や観光客に解放されている点だろう。また長さが約四八〇mで幅が約一〇〇mと巨大な大さん橋は、その大きさを利用したダイナミックな空間の変化も特徴。建物内部は、柱がなく解放的な空間に加え、スロープやエレベーターで昇り降りするバリアフリーな構造となつていて。

赤レンガ倉庫、山下公園に挟まれたこのターミナルは、周りの景観を妨げないような設計となつてお、周りの海にもなじむデザインで存在感はあるものの周りの景観を邪魔する事なく一体化している。また、「大さん橋の主役は、入出港する客船」この考えのもと客船への乗降に必要な最低限の高さになるよう設計されている。

大さん橋を側面から見ると、ターミナルの屋上はゆるりとした二つの山形となつてお。これは波のうねりをイメージしており、水面に浮かぶくじらのせなかのように見える。この外観からくるものもあるのだろうか、横浜市港湾局は二〇〇六年十二月四日、大さん橋国際客船ターミナルの屋上広場の愛称が「くじらのせなか」に決定したことを発表している。

## くじらのせなか

選定の理由は「屋上広場の特徴をよく表し『海に浮かぶ雄大なくじら』をイメージさせる。また、子供達に親しみやすく、わかりやすく、かつユニークである。」というもの。なるほど確かに「くじらのせなか」という愛称は可愛らしさも含みつつ大きくゆつたりとしたターミナルの風貌にぴったりの愛称だ。

老若男女に愛されるくじらのせなか、になつてほしい。



# 大さん橋デザインの秘密に迫る

## 大さん橋を歩く

### ♪フィールドワーク♪

十月の初旬私は大さん橋やその周辺をフィールドワークしてきました。その時は、イベントが行われていた事もあり賑やかな雰囲気のみならず、大さん橋は

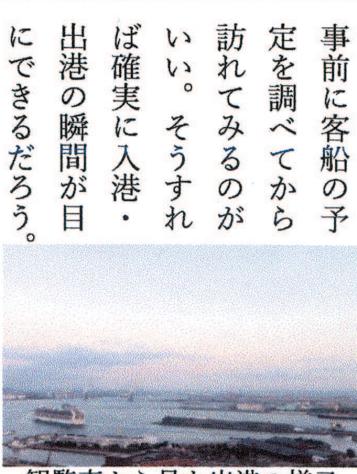
悠々とたたずんでいた。丸みを帯びたターミナルのシルエットに目を奪われた。たまたま「ダイヤモンド・プリンセス」という客船が寄港していて、船が泊まっている大さん橋国際客船ターミナルを見ることができた。

近くまで行つてみるとそこは予想以上に大きく大型客船を二隻同時に着岸させられる、というのに納得した。その後大さん橋国際客船ターミナルにある広場に足を向けた。潮風が吹きわたる広場には家族連れやカップル、友達同士など様々な人が思い思いにゆつたりとした時を過ごしていた。

帰り際に観覧車に乗つたのが幸運だった。観覧車の中から客船が出航するところをみることができたのだ。船がゆっくりと進み出しが埠頭を出て行く姿はもうこの先、

## 編集後記

今回この新聞を作成するにあたり私は事前に多方面に渡るたくさんの情報を得た。そしてその後初めてフィールドワークを行ってそのまま終わらせるのではなく実際に見にいく事で本当の意味でテーマについて理解した、と言えるのだと感じた。そして今まであまり興味が無かつたクルーズ客船だがいつか本当に乗つてみたいと思つた。



観覧車から見た出港の様子

中々みることができないだろう光景として脳裏に刻まれた。

皆さんにも機会があつたら大さん橋国際客船ターミナルを訪れてみてほしい。客船の入港・出港の日程などは横浜市港湾局のホームページで調べができる。